

## 平成 25 年第 2 回周防大島町国民健康保険運営協議会審議概要

- 1 . 開催日時 平成 25 年 10 月 4 日 ( 金 ) 午後 2 時 00 から午後 3 時 42 分
- 2 . 開催場所 橋庁舎 3 階会議室
- 3 . 出席者  
委員 松岡宏和、福田みちゑ、岸田邦子、山田修、正木純生、嶋元徹、中村瑞美、岩重秀二、中元みどり、吉井勝雄、伊藤秀行、魚谷洋一 ( 以上 12 名全員出席 )  
( 敬称略 )  
説明のため出席した者の職氏名 岡村副町長、川口健康福祉部長、岡野健康増進課長、中谷医療保険班長、川口健康づくり班長、田村主任保健師、今村主事、木村税務課長、木村税務課班長  
( 以上 9 名出席 )
- 4 . 配布資料  
( 1 ) 平成 25 年第 2 回周防大島町国民健康保険運営協議会 ( 会議次第 )  
( 2 ) 周防大島町国民健康保険運営協議会資料  
( 3 ) 平成 25 年第 2 回周防大島町国民健康保険運営協議会【説明資料】税務課
- 5 . 会議の概要 ( 主な項目 )
  - ( 1 ) 新委員及び事務局の紹介  
平成 25 年 3 月 31 日付けで泉原委員が辞任し、推薦団体の大島薬剤師会については 4 月 1 日に柳井薬剤師会に吸収合併されたため、新たに同団体より岩重委員が就任されたことのほか、町老人クラブ連合会の会長任期の満了により西本委員が辞任し、新たに会長となった吉井勝雄氏が委員に就任、さらに町自治会の会長任期の満了により秋吉委員が辞任、新たに会長となった伊藤秀行氏が委員に就任したことを説明し、併せて 4 月 1 日付の人事異動等により事務局職員が変更となったことを説明し、職員を紹介した。
    - ( 1 ) 委員出席状況の報告  
委員 12 名が出席し会議が成立している旨を報告した。
    - ( 2 ) 議事録署名委員の選任について  
中元議長が、名簿 8 番の岩重委員及び 10 番の吉井委員を議事録署名委員に指名した。
    - ( 3 ) 職務代理者の選出  
職務代理者であった秋吉委員の辞任に伴い、新たな職務代理者に伊藤委員を指名推薦の方法により選出した。
    - ( 4 ) 審議事項
      - 1 協議事項  
平成 24 年度国民健康保険事業特別会計決算状況及び同 25 年度予算執行状況について  
( 説明概要 ) 平成 24 年度決算は、最終的に一般会計から赤字補てんの為の繰入金

3千200万円余りにより収支ゼロ決算となったが、昨年度より約7千700万円減少した。また、赤字の要因としては医療費の増嵩、前期高齢者交付金は大幅に増えたものの、この影響により普通調整交付金及び特別調整交付金が減少したことによるものであることを説明し、平成25年度決算見込みについては、3月から7月の診療実績からの推計等により現段階で1億2千567万円程度減ると見込まれるが、共同事業関係の収支により、今年度も赤字補てんの為の一般会計からの繰入金金が9千411万5千円程度発生しそうであることを説明した。

(質疑) 決算資料について科目しかないのでは項目の詳しい内訳が記載された資料はいただけないか。

(回答) 今までこの協議会での資料は概括的な資料を挙げていましたが、次回からそのようにさせていただきます。

(質疑) 平成24年度当初予算では公営企業局への繰出金が694万4千円となっているが、決算額と大きく違うが途中で変わったり補正は勝手にするのか。

(回答) 当初予算では保健事業3病院の健康管理室運営補助694万4千円でしたが、決算額では785万6千円となっています。その他各3病院の山口大学の医師による宿直に195万1千円、施設整備費(レントゲン、MRI整備費)367万5千円を合わせ最終決算では1,348万2千円となっています。これにつきましては公営企業局が国または県の担当所管へ補助金の申請を行い認められたものについて、補正にあげ国保会計をトンネルして公営企業局に支出しています。

(質疑) この資料では何処から何処へトンネルとなっているのかが分からないので詳細な入りと出を出していただきたい。また、予算案と決算、並びに昨年度と比較するのであれば昨年度の資料も出していただきたい。

(回答) 明細となるとかなりの項目になると思いますが次回から付けたいと思います。

#### 医療費の状況について

(説明概要) 平成24年度の医療費の状況として、医療費に占める入院医療費の割合が国や県に比べて大きいこと。前期高齢者の入院費が増えた理由は、徐々に団塊の世が移行していること、平成25年5月診療分の疾病分析では特定疾病に対する医療費は1人当たりの県平均に比べ9割3分と殆ど倍近く高く循環器系の疾患や新生物(癌)等の医療費が伸びていること、レセプト1件当たり100万円以上掛かる医療費が若干落ちてきていること、近隣基幹病院への入院では1人当たりの高額療養費が前年に比べ4.3%の伸びであったことなどを説明した。

(質疑) 前期高齢者の入院費が増えた理由が団塊の世代の前期高齢者への移行であると言われるが、前期高齢者数は減っているのではないか。

(回答) 全体の前期高齢者数は減っているが、医療費を沢山使っている特定疾病の方が徐々に前期高齢者へ移行していることによることを説明した。

(質疑)精神疾患に対しては、生活習慣病のように医療費を削減する手段がないので、精神医療は別扱いで統計処理をすべきではないか。

(回答)精神についても入院にならないように保健指導を実施しているので手段がない訳ではない。

(質疑)生活習慣病にかかる医療費を削減する為の健診も結果によって医療につながれば、それだけその時には医療費が増えるが、10年、20年で考えれば医療費の削減につながっているかもしれない。その辺は不明である。

(回答)町内の旧町単位で分析すると特定健診の率の高いところは1人当たり医療費が低い傾向にあります。

#### 平成24年度特定健診・特定保健指導の実施状況について

(説明概要)平成24年度の特定健診受診者数は1,212人で受診率は24.2%であり、昨年度と比べ受診者数が156人増加、受診率で3.7%増加したことのほか、特定保健指導については保健指導対象者が119人、修了者数30人と昨年度より保健指導対象者2人減少し、終了者数も12名減少したことを説明し、さらに24年度から新たに実施した40歳到達者及び3年間医療無受診者に無料クーポン券の交付により32名が受診したこと並びに集団健診については7月、11月に各4会場で実施し、246名が受診したことを説明した。

(質疑なし)

#### 平成24年度国民健康保険税の決算状況及び同25年度国民健康保険税の決算状況について

(説明概要)平成24年度より国保税の賦課の方式を4方式から3方式に変更した結果、前年度に比べ調定額326万2600円増、収入額161万3630円の減、収納率1.08%の減となった。調定額が増加した主な要因は資産割廃止等による税率改正をおこなったこと。収入額及び収納率の減になった主な要因は、長引く不況等の影響が考えられることなどを説明した。また平成25年度の賦課状況については当初賦課時点で前年度に比べ調定額で1,954万円の減、対前年3.7%減となっていること。この主な要因として被保険者数並びに所得の減少が挙げられることを説明し、さらに国保連合会による財政診断資料から1世帯当たりの平均税額128,113円、1被保険者平均税額79,092円となっていること、納税通知書に関する問い合わせが全体で48件あったことなどを説明した。

(質疑なし)

#### 今後の国民健康保険事業の見込みについて

(説明概要)今年8月に社会保障制度改革国民会議における報告書が提出され社会保障に関する全体の概要が発表されたことから、その結果を踏まえ、国保に対してどのような影響や改革等が行われる予定であるのか資料をもとに説明した。そのうち、すでに決定している今後の制度改革としては、保険財政安定化事業の拡大及び短時間労働者の社保適用の拡大について実施内容と実施年度を説明

し、また、予定されている今後の制度改革（平成 25 年 9 月時点未決定）としては、低所得者の保険税負担軽減、保険税の賦課限度額の引上げ、70 から 74 歳の窓口負担が新たに 70 歳になる人から段階的に 2 割負担に変更となること、高額医療費の見直しにより自己負担限度額を負担能力に応じて細分化、国保財政支援の拡充、国保の県への運営移管については、国保の財政運営は県に移管されるが、保険税の賦課徴収及び保険事業は市町村が引き続き実施する見込みである等、実施内容並びに実施予定年度について説明した。

（質疑なし）

- ・その他に事務局の資料説明の仕方を短時間に分かりやすく行うよう意見があった。また、委員のうち公益を代表する委員とは、どのような意味があるのか質疑があり、公共の利益を代表する意味がある旨説明した。

## 2 その他

- ・事務局より、次回協議会を平成 26 年 1 月 31 日（金）午後 2 時から開催する旨を説明した。